



北陸地方整備局入札監視委員会事務局
資 料 配 付

配布日時

令和3年7月16日
配布をもって解禁

北陸地方整備局入札監視委員会の総会と第1回定例会議を開催しました — 議事概要を公表します —

北陸地方整備局入札監視委員会(※1)は令和3年度総会に引き続き、第一部会及び第二部会(※2)の第1回定例会議を6月23日に北陸地方整備局で開催しました。

総会では、委員長が選任され、第一部会及び第二部会所属の委員が指名されました。(別途 委員名簿参照)

その後、各部会の第1回定例会議を開催し、部会長が選任され、部会が抽出した事案の審議が行われました。

なお、審議の結果、委員会による意見具申又は勧告はありませんでした。

※1 入札及び契約の過程、契約内容の透明性を確保するため、平成6年度から設置された学識経験者等で構成される第三者機関です。

※2 第一部会(港湾空港関係事務以外を担当)及び第二部会(港湾空港関係事務を担当)は、入札・契約手続き関わる事項について、それぞれ審議しています。

同時発表記者クラブ
管内各県記者クラブ

(問い合わせ先)

北陸地方整備局入札監視委員会事務局

第一部会 電話025-280-8880(代表)

主任監査官 石川 孝行(会議の運営)

契約管理官 富樫 博人(別紙「1 入札・契約手続きの運用状況」、
「2 抽出事案(役務の提供等及び物品の製造等)」)

技術開発調整官 姫野 芳範(別紙「2 抽出事案(工事)(建設コンサルタント業務等)」)

第二部会 電話025-370-6650(経理調達課)

契約管理官 深澤 順麿

経理調達課長 池口 啓太

令和3年度 北陸地方整備局入札監視委員会 委員名簿

委 員 長	おお かわ ひで お 大 川 秀 雄	新潟工科大学 学長
-------	-----------------------	-----------

委員長代理	にし かた たい ち 西 方 太 地	公認会計士
-------	-----------------------	-------

【第一部会】

部 会 長	おお かわ ひで お 大 川 秀 雄	新潟工科大学 学長
-------	-----------------------	-----------

部会長代理	とよ た ひろ ふみ 豊 田 浩 史	長岡技術科学大学 教授 環境社会基盤工学専攻
-------	-----------------------	---------------------------

うえ むら みやこ 上 村 都	新潟大学 法学部 教授
--------------------	-------------

さ とう あや こ 佐 藤 綾 子	富山国際大学 現代社会学部 教授
----------------------	------------------

ひら いし ひろ か 平 石 広 佳	弁 護 士
-----------------------	-------

【第二部会】

部 会 長	にし かた たい ち 西 方 太 地	公認会計士
-------	-----------------------	-------

部会長代理	い とう ひで お 伊 藤 秀 夫	弁 護 士
-------	----------------------	-------

みち がみ ま ゆ 道 上 真 有	新潟大学 経済科学部 准教授
----------------------	----------------

北陸地方整備局入札監視委員会（第一部会第1回定例会議） 議事概要

開催日 及び場所	令和3年6月23日（水） 北陸地方整備局（新潟市中央区美咲町1-1-1）					
第一部会 所属委員	部 会 長 大川 秀雄（新潟工科大学 学長） 部会長代理 豊田 浩史（長岡技術科学大学 教授 環境社会基盤工学専攻） 委 員 上村 都（新潟大学 法学部 教授） 委 員 佐藤 綾子（富山国際大学 現代社会学部 教授） 委 員 平石 広佳（弁護士）					
審 議 対象期間	令和2年10月1日～令和3年3月31日					
報告事項	入札・契約手続の運用状況について （1）工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 （2）指名停止等の運用状況 （3）入札談合に関する情報等への対応状況 （4）再度入札における一位不調状況 （5）低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 （6）一者応札の発生状況 （7）不調・不落の発生状況 （8）高落札率の発生状況 （9）有資格業者登録状況					
審議事項 (工 事) 						

意見・質問	回答
<p>1 入札・契約手続きの運用状況について</p> <p>(1) 工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の傾向として、例えばコロナ禍の影響や自然災害の影響など、様々な外部環境があったが、一年間の執行についての特徴的なものがあれば教えてほしい。 ・ 工事について、比較の入札者数が多いところで、同じ会社が落札しているという事例が見られます。偶然なのか、価格的な強みがあるのか。また、地域的な強みがあるのか。何か背景・特徴があるのであれば、教えてください。 ・ 随意契約で広告等を新聞社にお願いする事案で、予定価格と契約金額が同一となっています。新聞の紙面掲載料金として幾らであるかはっきりわかるからという理解で宜しいですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・減災、国土強靱化のための緊急対策ということで予算規模は少しずつ増えている方向であり、契約件数も多くなっています。 一方で、新型コロナウイルス感染防止対策が昨年から現在も続いているところです。公共工事は継続すべき事業という位置付けであり、止めることなく進めておりますが、企業のテレワークあるいは発注者側も一部テレワークをするような状況で、執行が非常に難しい中ではありますが、結果的に例年どおり契約は順調に執行されています。 ・ 詳細な分析は行っていないですが、これらはすべて施工能力評価型Ⅱ型という方式で行っています。個々の工事の施工計画やテーマ（技術提案）を求めないので、企業と配置予定技術者の施工能力の評価と入札の額で決定します。優秀な技術者を配置し、企業が高い点数を持てば落札しやすくなります。なお、積算については、ほぼ公開されておりますので、精度良く積算できる状況もあり、企業は戦略的に受注しているという状況が推察されます。 ・ 市場価格調査ということで、参考見積もりを徴取しています。当該掲載業務を唯一履行できる者ということで、その価格を採用しているところですが、他社の同じような広告等の価格も参考にしながら、適正な価格かどうかを判断しています。
<p>(2) 指名停止等の運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。 	
<p>(3) 入札談合に関する情報等への対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。 	

意 見 ・ 質 問	回 答
(4) 再度入札における一位不動状況 ・ 特になし	
(5) 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 ・ 特になし	
(6) 一者応札の発生状況 ・ 特になし	
(7) 不調・不落の発生状況 ・ 特になし	
(8) 高落札率の発生状況 ・ 特になし	
(9) 有資格業者登録状況 ・ 特になし	
2 抽出事案の審議について (工 事) 1 一般競争入札方式 (政府調達に関する協定適用対象工事) 「金沢広坂合同庁舎（２０）空調設備改修工事」 ・ 特になし	
(政府調達に関する協定適用対象工事以外) 「金沢公共職業安定所（Ｒ２）空調設備改修工事」 ・ 特になし	
「令和２年度神通川水系砂防事務所ＣＣＴＶ整備工事」 ・ 特になし	

意見・質問	回答
<p>「国道289号叶津地区スノーシェッド下部外工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高落札率で、参加者が少ない案件です。いろいろな理由・条件があり、工事条件が厳しいとかなかなか参加する者が少ないと思われますが、発注者として競争率を高めるということから、何か魅力をつけることはできないでしょうか。 <p>また、本件では、最低でも一者が参加してくれているので、問題はなかったと思うのですが、入札参加者がいない場合はどうするのですか。もう一回同じように公告するのか、何か改良して出すのかを聞かせ下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般競争入札を行い、参加者がいなかったという場合は、内容を変えて再公告します。内容を変えるというのは、何故1者も来なかったのかというところを分析するのですが、価格であれば、より見積もりを多く採用した積算に変更するとか、工事の内容についても、何かを足したり引いたりして、魅力あるものにしています。また、技術者の参加資格要件や参加者の区域の緩和も行っています。なお、一般競争を複数回行っても不調であれば、指名競争に移るという手立てもあります。 <p>魅力ある工事を出すべきだと仰るのは、もっともで、工事実績データベースもありますので、参加資格者数や技術者数も確認しながら、多くの参加者があり公平公正な競争入札ができるよう、ある程度目算をつけて発注しています。</p> <p>地域によっては、技術者が不足しているなど、いろいろな事情があって参加者が少ないということはあることです。さらに、山間部で施工条件が厳しかったり、市街地で交通量が非常に多く調整等が困難な工事には、なかなか手を挙げて来ない場合もありますが、様々な不調不落対策を全国で実施しておりますので、その中から、効果的なものを当整備局でもいろいろ試行しております。</p>
<p>「R3 鬼ヶ城仮橋及び河道掘削工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落札の大きな要因が技術提案評価点の点数の差によるものと見受けられますが、落札した者が過去に鬼ヶ城の関連の工事の実績があったので評価ポイントに反映されたのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事実績というのは、必ずしもここだけの工事ではなく、管内の他の現場の工事実績も加味して評価しています。

意見・質問	回答
<p>2 指名競争入札方式</p> <p>「神通川・中神通護岸災害復旧工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加希望の意思を確認して名簿を作成するという説明でしたが、実際の入札では辞退者が5者出ています。辞退者が多く出ている要因は何でしょうか。 入札の中で、予定技術者の配置ができないということで無効になっているものがありますが、予定技術者が配置できないというのは、どの段階で判明するのでしょうか。要件の中では判定されないのでしょうか。 フレームワークモデル工事について、説明では3つの工事についてということでしたが、それを行うメリットというのは、どのようなことなのでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> この案件は、最初に「フレームワークモデル工事」として3件の工事の提示をしています。それに対して、参加希望のあった11者に参加資格を与え、指名競争の名簿を作成しました。 この3件の工事の入札に際して、辞退した者が5者あったということになります。 理由とすれば、当該工事に充てようとしていた技術者を、(今回のフレームワークモデル工事以外の)他の工事に配置してしまった場合など、そもそもこの工事に技術者を配置できなくなったということで辞退されているものと思われます。 また、3つの工事を開札する順番により、1番目の開札が終わった時点で落札者となり、そこに技術者を配置することとしたため、2番目の開札が行われる際には、配置する技術者がいなくなり無効になっているということです。 フレームワークモデル工事は、一定の地域で、災害復旧工事のように一つの河川で何本も似たような工事を出さなければならない事案が発生したときなど、技術者の確保が難しかったり、参加者がその地域で足りなかったりするときに、不調不落が発生する可能性があるということの対策として、あらかじめ参加業者数を確保するというものです。メリットは、あらかじめ工事の量がわかるということと、受注希望者に対しては、企業の能力しか求めないので、技術提案等の資料作成が無いため、参加業者の負担が少ないということと、スピーディに手続きが進むということです。

意見・質問	回答
<p>2 指名競争入札方式 「神通川・中神通護岸災害復旧工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回3つの工事があって、一つ落札したところは、次の工事は、入札しても取れない、つまり落札できないという理解で宜しいのでしょうか。それとも複数落札できるのでしょうか。 ・ 同一フレームワークモデル工事において落札可能な件数はフレキシブルなのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のこの案件について、落札可能者数は1者2件までとしています。あらかじめ2件落札するつもりであれば、その資格のある技術者を2人準備しておかなければ受注できません。 ・ 今回の工事については、「1者2件まで」という条件を付して出していますが、これは、必ずしも決まりというわけではありません。極端な例ですが、10件でフレームを組んだ場合、1者で複数落札できるようにすることも考えられます。もともと技術者不足に対して対応するという側面もあるやり方なので、そこは臨機に変われば良いと考え、試行しています。 <p>昨年度に新潟県中越地方と富山県で不調不落が連続的に発生した時期があり、地区限定で不調不落を減らす対策が打てないかということでフレームワークの該当工事を検討しました。その結果、中越地方では該当する工事はありませんでしたが、富山県のこの3件がまとめてできるということで試行しました。試行結果については11者も参加いただき、不調不落もなく入札できましたので、今年度はフレームワーク方式を全事務所に展開して、この方式の活用を検討しているところです。</p>
<p>3 随意契約方式 「大石西山排水トンネル立坑他工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	

意見・質問	回答
<p>（建設コンサルタント業務等）</p> <p>1 簡易公募型競争入札方式（総合評価落札方式） 「令和2年度下生野築堤用地調査等業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落札率が低いですが、低入札ではなかったのでしょうか。精度の高い積算ができるいった説明でしたが、この案件はどうかお聞かせ下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低入札の基準となる調査基準価格は1,774万円です。落札額は1,776万円ということで、調査基準価格ギリギリを狙っていたと推察されます。積算基準は公表されていますので、かなり精度は高い積算価格を計算することは可能です。
<p>2 簡易公募型プロポーザル方式 「R2日東道盛土対策検討及び設計業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	
<p>（役務の提供等及び物品の製造等）</p> <p>一般競争入札方式 「令和2年度高田河川国道PCB廃棄物処理業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格と調査基準価格についてですが、予定価格が調査基準価格に比べてかなり高いように見えます。調査基準価格と予定価格の差が、かなり差があるように見えるのですが、その点の理由があれば教えて頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予定価格は、見積もりを参考に積算しています。落札者は調査基準価格よりも上で入札していますので、企業努力もあると思いますが、問題はなかったと認識しています。 <p>予定価格というのは、私どもが積算してこの価格が妥当であるという価格。調査基準価格というのは予定価格よりも下で、品質を最低限確保できるという価格です。</p> <p>この案件は役務の提供となります。役務の場合は、様々な仕事をしていただくこともあり、工事や業務委託と比べて差が大きくなりますが、本省が財務省協議をしており、調査基準価格は予定価格の60%と定められています。</p>